



メンタルヘルス分科会

- リーダー機関 塩野義製薬株式会社
- 代表者名 塩野義製薬（株）取締役副会長 澤田拓子
- リーダー名 ヘルスケア戦略本部 メディカルアフェアーズ部 廣居伸蔵
ヘルスケア戦略本部 新規事業推進部 小林博幸

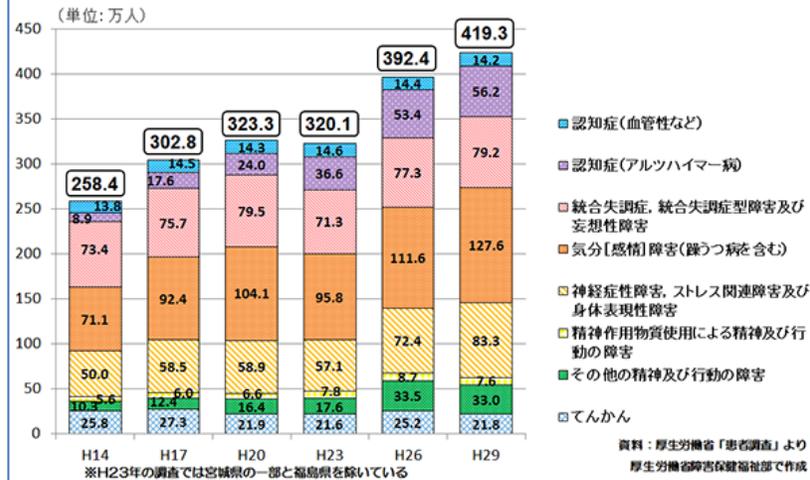
メンタルヘルス、精神疾患に関する課題

予防～治療、治療後のサポートまで、
すべての段階に課題が多数存在



- 患者自身が「病気である」と認識できず受診まで時間を要してしまい悪化する
- 早期診断が確立しておらず、治療しても再発してしまう可能性があり、社会復帰が難しい
- 多様な症状が混在し、診断が難しい
- 働き盛りの40代に患者さんが多く、経済損失も大きい (経済的便益の推計学で約2兆7000億円)
- COVID-19の影響による患者数増加が予想される

精神疾患を有する総患者数の推移 (疾病別内訳)



- 精神疾患は患者さんだけでなく、患者さんの周囲(家族・社会)にとっても影響が大きい
- 精神疾患患者は増加しており、課題解決が必要である
- メンタル不調によるQOL低下、生産性低下も大きな問題

メンタルヘルス分科会の活動方針

メンタルヘルスケアソリューションを次々と提供するためのプラットフォーム

周産期のメンタル不調



一般的なメンタル不調



症状に基づく精神疾患全般*

- ・日常生活における変化を捉えた予防・啓発
- ・客観的データを用いたヘルスケアソリューション

- 少子化、出産年齢の高齢化、コロナ禍による影響等で増加している妊産婦のメンタル不調から着手
- 各種ヘルスケアソリューションの実証とデータに基づくエビデンス取得（産後うつへの予防効果など）
- PHRなどのデータと連携した、ソリューションの評価・精緻化のためのプラットフォーム構築

客観的なデータに基づくソリューションの評価・精緻化

最適なソリューションの提案

ヘルスケアソリューションを、周産期から一般的なメンタル不調へ展開

- 2025年までにデータに基づいたヘルスケアソリューションを複数展開
- メンタル不調の改善による、社会生産性の向上を目指す

なぜ周産期を選んだのか

妊娠期・授乳期は様々な不調があっても
「とにかく耐える！」 「一時期だからとあきらめる」を変えた

い！

自分の体の変化や
慣れない育児による
心身の不調 **+ 孤独**

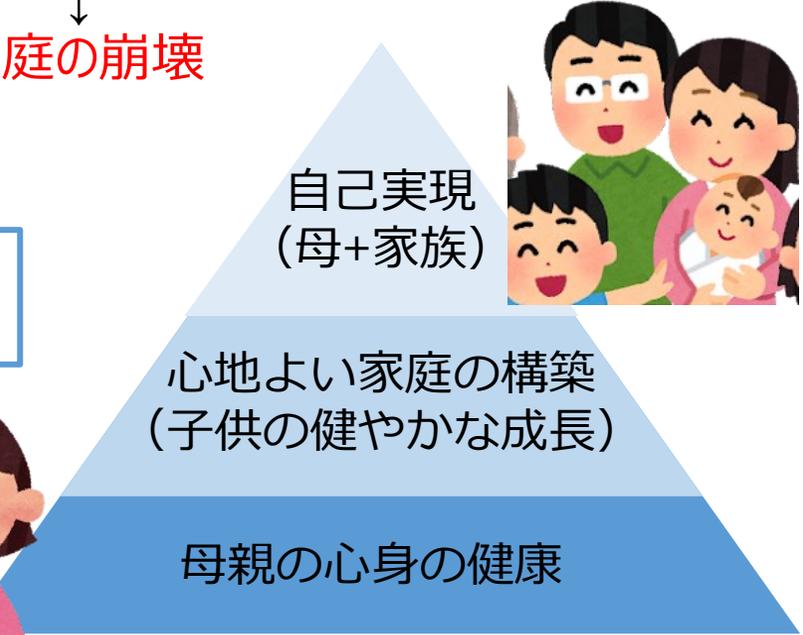
- ・ 妊産婦の自殺
- ・ 児童虐待
- ・ 夫婦関係の悪化

- ・ **自己実現への諦め**
- ・ 社会貢献の機会損失
- ・ 社会生産性の低下

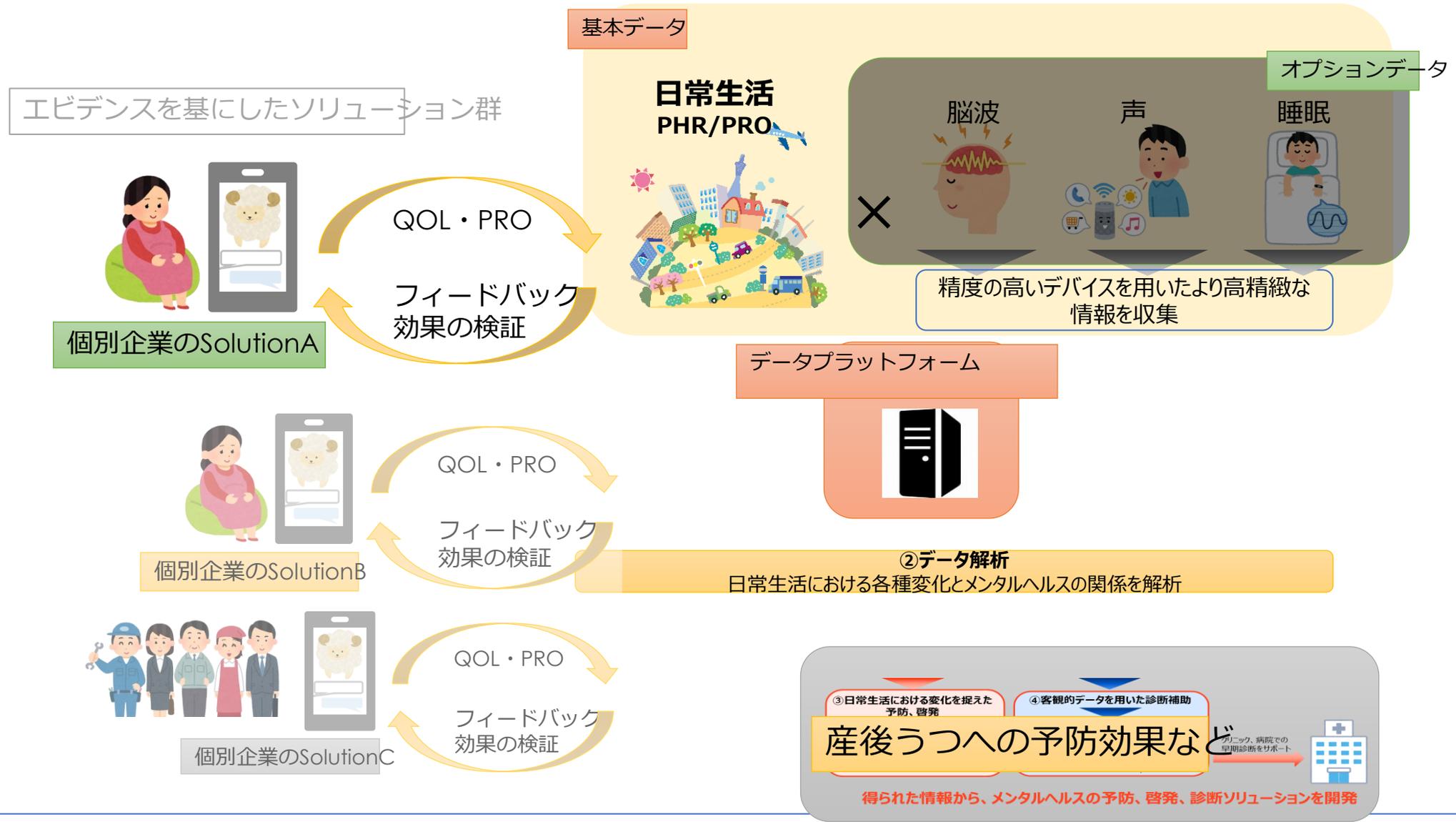
心地よい家庭の崩壊



科学的なエビデンスに基づいた
情報・解決策（薬やサービス）の
提供



コンセプト：プラットフォームとSolution



2025年までのアクションプラン案



	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
アクション	<ul style="list-style-type: none"> ソリューション実証に向けた基盤整備・プランニング 	<ul style="list-style-type: none"> 妊産婦を対象としたフィールド実証 妊産婦以外への展開の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 妊産婦を対象としたフィールド実証② 妊産婦以外へのソリューション実証 	<ul style="list-style-type: none"> 妊産婦ソリューションの実装 データを用いたメンタルヘルスソリューションプラットフォーム実装
アクション 詳細	<ul style="list-style-type: none"> データ基盤パートナーの選定 ソリューションプロトタイプ作製の検討 実証フィールドの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ソリューションとPHR, PROに基づく効果検証の実証 他社パートナーのソリューションの募集・選定 一般的なメンタル不調へのソリューション準備 	<ul style="list-style-type: none"> ソリューション検証のためのデータ取得の拡大(研究として) 一般的なメンタル不調へのソリューションの実証(妊産婦を含め複数) 	<ul style="list-style-type: none"> メンタル不調に悩む方へのソリューション展開 生き生きと暮らし、働ける世の中へ

2025年の大阪万博での実証成果の発表・Solution紹介